

授 業 科 目 の 概 要

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
心理学	<p>個人の心の特性と社会における人間行動を理解し、その基本理論や知識の修得を目標とする。</p> <p>(1)多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解(2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野(3)性格・パーソナリティ、社会と人間行動・心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。自分たちが日常的に考え、行ったりしていることを、こころの科学として実証的に考察した主要な研究や実験を紹介し、人間への理解を深める。</p>
教育原理	<p>西洋と我が国における教育の理念、教育思想の歴史的、思想史的展開を手がかりに、教育思想や学校や家族、社会における教授-学習の本質を理解する。さらにそれをとおして正しい教育観や子ども観、学校観を形成する。さらに、問題解決学習や参加型メディア教育における学びを手がかりに、学習の意義や学校における教授-学習の在り方を具体的に理解する。</p>
子ども家庭福祉	<p>子ども家庭福祉の理念や歴史、関連する法体系、関連する機関や施設などの基礎的知識に加え、子どもとその家庭を取り巻く現状、被虐待児を含む要保護児童の理解と支援、非行少年や障がい児の理解と支援等、現代社会が抱える子ども福祉の課題と支援について幅広く学ぶ。また、子ども家庭福祉の根底に流れる子どもの権利についても考える。</p>
社会福祉概論	<p>社会福祉の理念・概念、歴史など、社会福祉の基礎的な学習から始まり、社会福祉の制度や実施体系、社会保障及び関連制度について学ぶ。また、社会福祉における相談援助の対象や方法、技術について学ぶ。さらに、福祉サービスの提供にあたって規定されている利用者保護に関わる制度の背景や法的根拠等を学ぶ。加えて、諸外国を含め、今後の社会福祉の動向と課題を考察する。</p>
社会的養護Ⅰ	<p>社会的養護の理念、歴史、児童の権利など社会的養護の概念を理解するために必要な基礎的知識を学んだ上で、社会的養護を支える制度、法律、体系、専門職について取り上げる。また、社会的養護が必要となる主因の一つである児童虐待について、基礎的知識からその発生予防及び再発防止と治療的関わりまでを学んだ上、要保護児童全般に対する養育・支援に関して、ソーシャルワークの原理と実践技術について学ぶ。さらに、社会的養護における今日的な課題や児童等虐待の防止につながる地域活動についても考える。</p>
幼児と人間関係	<p>幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「人間関係」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の人間関係の発達についての知識を理論や事例から学ぶ。また、子どもの家庭や地域での生活をめぐる社会的な問題を考察することを通じて、子どもの人間関係の発達のために保育者が家庭や地域で担う役割とは何かを学ぶ。</p>
保育内容・人間関係の指導法	<p>『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における領域「人間関係」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の人間関係の発達のために実践される保育内容の指導法を理論や実践事例から学ぶ。また、領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材の研究と情報機器の活用について理解する。そして、授業で学んだ知識を総合して、子どもの人間関係を育む活動を中心とした保育指導案を作成し、模擬保育の実践と反省をすることを通じて、保育の実践力と構想力を高める。</p>

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
幼児理解の理論と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握すること（幼児理解）の意義について説明する。 ・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方、理解するための具体的な方法、幼児理解に基づいた保育者の援助について説明する。
子ども家庭支援論	<p>子どもや家庭を取り巻く社会環境の変化（少子化、核家族化等）を理解した上で、現代の家庭が抱える子育ての困難及び、それに対する支援制度と子育て支援の社会資源について学ぶ。また、保育士としての専門性を活かした子育て支援のあり方、地域支援のあり方について理解を深めるとともに、相談援助技術を含め、要保護児童を含む多様な子どもやその家庭に対する支援について学ぶ。</p>
乳児保育 I	<p>乳児期は人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児保育の歴史的変遷や母子保健の統計から現状を理解するとともに、保育所や乳児院で乳児保育（3歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて解説する。乳幼児期（3歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるため、低年齢児の保育の概念と意義、発達段階に応じた保育者としての関わりについて学びを深めていく。</p>
学校教育と文化・社会	<p>本科目は、学校教育を文化研究・社会研究のアプローチから学ぶことを通じて、教育の基礎理論を発展的に学ぶことを目的とする。</p> <p>具体的には、学校教育や保育の文化的な特徴や社会的な課題について、「保幼小接続」「地域資源」「人・物・環境の関係」を手がかりに、理論的な理解にもとづく事例検討とディスカッションを通じて学びを深める。</p> <p>そして、自ら設定したテーマ企画の発表を通じて、学校教育や保育をめぐる文化的な特徴や社会的な課題について、これまでに培った知識・思考・表現・関心を総合的に運用しながら探究する力を身につける。</p>
小学算数	<p>中学校数学科への円滑な接続を展望した小学校算数科の目標・内容の取扱いの重点について、数学的に考える資質・能力の育成の面及び小学校算数科の5領域と中学校数学科の4領域の関連の面、の両面から講義及び演習を行う。</p> <p>また、本授業は、学校現場の実践に即した演習を多く取り入れ展開する。</p>
算数	<p>これまでに学習した数学を基盤として、小学校算数科の5つの領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の数学的内容を講義する。また、全国学力・学習状況調査、国際数学理科動向調査（TIMSS）等、算数・数学教育における学習者の実態について理解を深めることができるようにする。</p> <p>授業では、講義と演習をとおして、小学校算数科の内容の系統性や中学校及び高等学校の接続についてより深く理解できるよう配慮する。</p>
ドイツ語	<p>「基礎ドイツ語」の初級項目を基礎に、下記のテキストを使用して、読む力を確かなものにする。少し長めの文章を読むことで、ドイツ語の文法を復習し、読むことのこつを身につける。</p> <p>テキスト：Ute Schmidt (2021) 『ファウストとメフィストと学ぶ ドイツ文化8章 プラス・エクスルトラ』三修社</p>

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
総合英語D (英会話)	Before each class students should complete the textbook questions to solve the weekly puzzle and the crossword puzzle. In class, students will make groups and use the questions they've prepared to solve the puzzle. Next, students will practice asking each other questions, providing extra information and speaking fluently on a topic in pairs. Then, they will make a story based on a picture by asking and answering questions. In the midterm and final speaking tests, students will be tested by asking the teacher questions and answering questions.
日本の歴史 (観光史)	本講は、おおまかにはふたつの時代の、旅や市民娯楽文化の成り立ち・形態についてとりあげます。 前半は、近世の話です。街道や宿場、参詣案内などからなる旅行システム、江戸の大名庭園、花見や園地の成り立ちなどを紹介します。そのうち、幕末以降の近代国家づくりが進められた時期に目を転じましょう。国策や企業活動、社会のうごきと関わってそれまでとは変わってくる国内旅行の姿、新しいレジャーや目的地の出現について知見を増し、理解を深めます。
日本語学概論	他の言語と比較対照しながら、世界の中の日本語（口語を含む）がどのような言語かということ概観する。高校までは、外国語は英語しか学んでいない人が多いが、英語との対比のみで、日本語の特殊性を語ることの安直さを避け、様々な言語と比較対照することで、日本語への偏見（欲目 or 卑下）をなくし、言語そのものの性質を学ぶことを目的とする。具体的には、目標として、音声（子音・母音体系）・文字の体系・語の形態を学び、日本語の特徴を考える。この授業は、「日本語学演習」や「対照文法」などの基礎となる。
日本語文法論	文法とは文が成立している際に認められる文内部の規則のことである。この授業では日本語にどのような文法上の特徴があるかについての講義を行う。 初めに今日に至るまで文法研究がどのような現象に注目して行われてきたかを概観する。そのうえで、文とは何か、文を構成する単位である語とは何か、語はどのような種類に分けられるか、種類分けされた語はそれぞれどのような働きをするのか、文にはどのような種類があるのか、などを検討する。
日本文学概論B	明治から現代に至る日本近代文学の歴史を学び、各時代の状況と文学との関わりを知り、時代によって様々な状況に置かれた人間の生き方について理解を深めることを目標とする。 講義にあたっては、文学史の説明に合わせ、より実感的にその歴史を理解するために、各時代における主要な作品（おもに小説）を実際に読みながら進めていく。作品の読解にあたっては、グループでの話し合いや発表などを取り入れ、双方向的に授業を行う。
古典文学 (中古)	『伊勢物語』の作品の読解と研究の方法、くずし字の読み方を身につける実践演習である。作品章段を一人1～2段ずつ担当し、くずし字の読解、注釈の検討用例の検索・物語の解釈をおこなう。先行研究をふまえ、自身の力で物語を解釈する力を養いたい。加えて、後世の『伊勢物語』の受容について考察する。
英語学概論C	言語学や英語学の領域のうち、特に社会言語学と心理言語学を中心に取り上げて概観する。具体的には、社会言語学の領域では、地域方言、社会方言、言語とジェンダー、心理言語学の領域では、第一言語習得とその発達について学ぶ。また、社会言語学領域については、原書を読みながらさらに理解を深める。具体的には、標準語、アクセントと方言、地域方言（等語線と方言境界、方言の連続体）、二言語併用者、言語計画、ピジンとクリオール、社会方言（教育・職業・社会階層、年齢・性別、民族的背景）、個人方言、スタイルと言語使用域、二変種使い分け、言語と文化、言語決定論、サピア・ウォーフの仮説、言語の普遍性などをトピックとして取り上げる。

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
英文法Ⅱ	英文法について関連する資料や用例をもとに学習する。 具体的には、形容詞、副詞、前置詞、助動詞、文の機能、文の表現法、動詞の表現形式と法などについてとりあげて、それらを正確に理解するとともに分析的に考察する。
英語学演習B	言語学・英語学について書かれた原書を読むことによって、英語学概論や英文法の講義で学んだ知識をさらに深める。 具体的には、子どもの言語習得、文法規則と文法変異、なまりと方言、バイリンガリズム、世界の言語、サイン言語、絶滅に瀕した言語、言語変化、言語の変種、言語と感情、ポリティカル・コレクトネス、応用言語学などについて書かれた原書を読んで、言語や英語についての理解を深める。
英語コミュニケーション実践演習Ⅱ	First, students will practice having conversations in pairs within a limited time to help improve fluency. Next, they will practice writing freely about the topic. Then, they discuss their ideas with a partner. After that, students will use the textbook for conversation practice in pairs. Finally, the class will review the listening assignment done for homework and do a vocabulary quiz. This course aims to develop conversational ability by focusing on having meaningful interactions in English. Students will use Flipgrip to post videos of themselves answering questions about the topic.
エッセイ・ライティング	First, students will submit their textbooks so the instructor can check the homework. During this time, students will complete the speed translation and opinion writing assignment (ST&OW). Next, students will have conversations with a partner about the essay topics. Then, they will write an essay in class. The homework is to complete the textbook assignments before the next class.
メディア英語Ⅱ	日本を含めた世界の今日的话题を扱った記事を読むことを通して、「英語を読む」から「英語で読む」への転換を図り、英語での情報収集能力を養うことを目標とする。 授業では、英語の新聞、雑誌など活字メディアの記事を扱い、要点を押さえながらある程度の速度で読み通す力を養う。また、様々な語彙や英語表現を学び、それらを活用して記事の要約やコメントを英語でまとめるタスクを行う。このことを通して、英語の発信力と、世界情勢や現代を生きる私たちが直面している様々な課題を自分に引きつけて考えようとする姿勢を培う。
地域とことば	文字どおり「地域」と「ことば」の関わりを考える授業である。そもそも日本では関心が薄いせいであまり顧みられていない、世界のそれぞれの地域にはどのような言語にまつわる問題があるのか、ということ。また我々が当たり前前に存在していると感じている概念（たとえば「国語」や「方言」）をもう一度考え直す機会としてもらいたい。日本は単一民俗・単一言語という言説がいまだに語られることがあるが、それはどのくらい妥当で、どのくらい妥当でないのかを考えてもらいたい。

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
観光まちづくり論	<p>まちづくりとは、住民がみずから身近な環境の改善をはかっていく持続的な活動のことを指します。</p> <p>観光まちづくりは、それらを地域内外の交流活動や観光の迎え入れを手がかりにしておこなうというものです。ただ、どのような点を重視するかとなると、見解が分かれているようです。</p> <p>本講は、国策「観光まちづくり」の出現に先立ち、観光開発とまちづくりの歩みがそれぞれにあり、それぞれの場で見いだされてきた知があると考えます。観光まちづくりの上流ともいえるそれらの出来事や見解の分かれていく様相をふりかえって、観光まちづくりという思想のそもそもの輪郭を見いだしていきます。</p>
国語科教育法Ⅰ	<p>本科目は、国語科教育に関する導入科目である。</p> <p>まずは「読むこと」「書くこと」の指導領域について、具体的な活動や授業実践を体験してもらおう。次に、そこで生じた学びのあり様を共有しつつ、認知のメカニズムや、指導要領の記述、国語科教育研究の知見を用いて意味づけていく。こうすることによって、これから求められる国語科授業の目標・内容・方法について、理論と実践を結びつけた理解を促していく。</p> <p>最終的には、そこで得た知識や視点を用いて教科書教材を分析する力や、教科書の「学習の手引き」を改変して授業を構想していく力を育てていく。併せて、これまでの被教育経験を通して培われてきた「国語科授業観」を問い直していく。</p>
教育原理	<p>西洋と我が国における教育の理念、教育思想の歴史的、思想史的展開を手がかりに、教育思想や学校や家族、社会における教授-学習の本質を理解する。さらにそれをとおして正しい教育観や子ども観、学校観を形成する。さらに、問題解決学習や参加型メディア教育における学びを手がかりに、学習の意義や学校における教授-学習の在り方を具体的に理解する。</p>
情報サービス論	<p>図書館は利用者の情報探索と情報の入手に対する支援を通じて、地域課題や地域住民の日常生活、学業、仕事に関わる様々な課題解決に取り組んでいる。</p> <p>本授業では、図書館が提供する情報サービスの意義と実践を理解することを目標とする。「情報サービスの意義と理論」「情報検索サービス」「レファレンスサービス」「その他の情報サービス」「著作権」等について解説する。</p>
情報資源組織論	<p>図書館における情報資源組織の意義および情報資源組織に用いる各種ツールの役割について理解することを目標とする。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と方法について、書誌コントロール、書誌記述法、主題組織法（分類法、件名法）、メタデータ、各種MARC、書誌ユーティリティ等の観点から解説する。</p>